

安全性高め合併症減少 数日でも気道炎症改善

皆さん、手術の前に禁煙が必要だとい存じでしょか。手術を控えた患者さんに「今日から禁煙をお願いします」とお伝えすると、驚かれる方が少なくありません。「長年吸つてきたのに、今更何

必要な医療行為であり、手術の安全性を高めるためには欠かせない取り組みなのです。麻酔科医として現場に立つ立場から、そ

の理由をお話しします。

たばこの煙に含まれる一酸化炭素(CO)や二

健康ファイル

愛媛県医師会

手術前の禁煙

松山市民病院麻酔科 寺尾 欣也

が届かず、傷の治りが遅れたり（非喫煙者と比べ約1・6倍）、感染を引き起こしたり（同約1・3倍）するリスクが高まります。

さらに、喫煙は肺の機能を低下させ、麻酔中や手術後の呼吸器合併症を増加させることが知られています（非喫煙者と比べ少なくとも1・5倍）。

肺炎や無気肺、たんが出ています（非喫煙者と比べ少なくとも1・5倍）。

手術前は、「自身の健康にいくなるなどの症状は回復を妨げ、重症化すれば命に関わることもある」という明確な目標が

あります。喫煙の悪影響は「肺に悪い」という一般的なイメージ以上に、医療現場では深刻な問題です。

では、いつから禁煙すればよいのでしょうか。

理想は手術の1ヶ月以上前からですが、そこまでの時間を確保できない方も多いと思います。ご安

心ください。2週間前、

さらには1週間前からで

も効果があり、気道の炎

症は禁煙後数日で改善し

始めます。「もう遅い」

ということではなく、「始

めた時点から改善が始ま

る」が正しい理解です。

手術前は、「自身の健

康と向き合う貴重な時期で

す。「手術を安全に迎え

る」という明確な目標が

あります。喫煙は成功しや

すくなります。医療側も、少

しでも前向きに禁煙へ踏

み出していくだければ幸

いです。

あれば、医師や看護師、

禁煙外来に遠慮なく相談

してください。

禁煙が手術の安全性を

高めることは、摇るぎな

い医学的事実です。そし

て禁煙の開始時期は「い

つからでも遅くありません」。手術をきっかけに

禁煙を始めた多くの患者

さんが、手術後の回復を

順調に進め、その後も禁

煙を続けています。

「今日から禁煙をやっ

てみよう」。その一步が、

安全な手術と健やかな未

来への入り口です。手術

を控える患者さんが、少

なく、無理のない禁煙

ながら、無理のない禁煙

を支援できます。不安が

ればよいのでしょうか。

△第3火曜日に掲載

県医師会ホームページ <http://www.ehime.med.or.jp/>

2025年12月16日付愛媛新聞
掲載許可番号 d20251219-01